



KEY
PERSON
INTERVIEW
VOL.2

厚生労働大臣

舛添要一

[日本再生の秘策]

「政党なんか超えて
オールジャパンでいかないと
日本の再生はありません」

参院選後の首相続投宣言を「フライングだ!」といち早く批判。
選挙の前からも、ずっと安倍内閣批判の急先鋒だった舛添要一。
それが内閣改造でまさかの入閣、今もっともホットな厚生労働大臣に。
政治経済のスペシャリストは、もとより無派閥のアウトサイダー。
6年前、政治家になった彼はどんなビジョンを抱き、何を批判しているのか。
これは入閣前夜の舛添要一が語った日本の地方再生論。それは
大胆にして過激な、アッ! と驚くショック療法。あなたは賛成か反対か!?



↑地方活性の決め手「道州制」。州の間に関所を作り、通行料を安くして客を呼ぶもよし、バカ高くして地産地消を高めるもよし。

8月の入閣が決まる1週間前。舛添の仕事場、参議院の自民党政策審議会議室で取材を行なった。「なかなか取材の時間が取れなくて、すみませんでしたね」と、持ち前の鋭い眼光に柔和な笑みを浮かべる舛添要一。さすがメディア巧者！日本再生ビジョンについてたずねると、滔々と流れる水のごとく語ってくれた。

「まず、地方が元気にならなければ日本の再生はありません。農村、山村、山村がみな寒村になっちゃった。それを建て直すには『オールジャパン』でやるしかない」舛添のキーワードのひとつに、『オールジャパン』というのがある。どういう意味だろうか？「農村を建て直すという時に、君、田舎に帰って農業しますか？」って聞いても、『やる』って言う人はほとんどいませんね。じゃ、どうするか？『君が払っている税金をばら撒いて、君が払っている税金をばら撒いて、君が払っている税金をばら撒いて』ってことですか？『車やパソコンを売って儲けたお金を農業の再生のために使う』

「ヤ」を知らない子供たちを田舎に留学させる

先の選挙では民主党の農家の戸別所得補償案が支持され、長年自民党の地盤だった農村の票を集めた。しかし舛添は、あれは従来のバラマキと同じだとバツサリ。

「この前ウチの子にヤゴを見せたら、知らないんだよね。最近の都会の子ってヤゴを知らないんだよね。だから都会の子供を2週間くらい田舎に留学させて相互交流させる。そうすれば田舎の小学校も廃校にしないで済む。自然の勉強だから文部科学省の予算が付く。そうやっていろんな理由を見つけて、いろんな所からお金を出す。税金を使う。『オールジャパン』でやるっていうのはそういうことです」

「今に始まったことではないが、社会保険庁をはじめとした世論の役所・官僚バッシングは激しさを増している。これを彼は、こう見る。

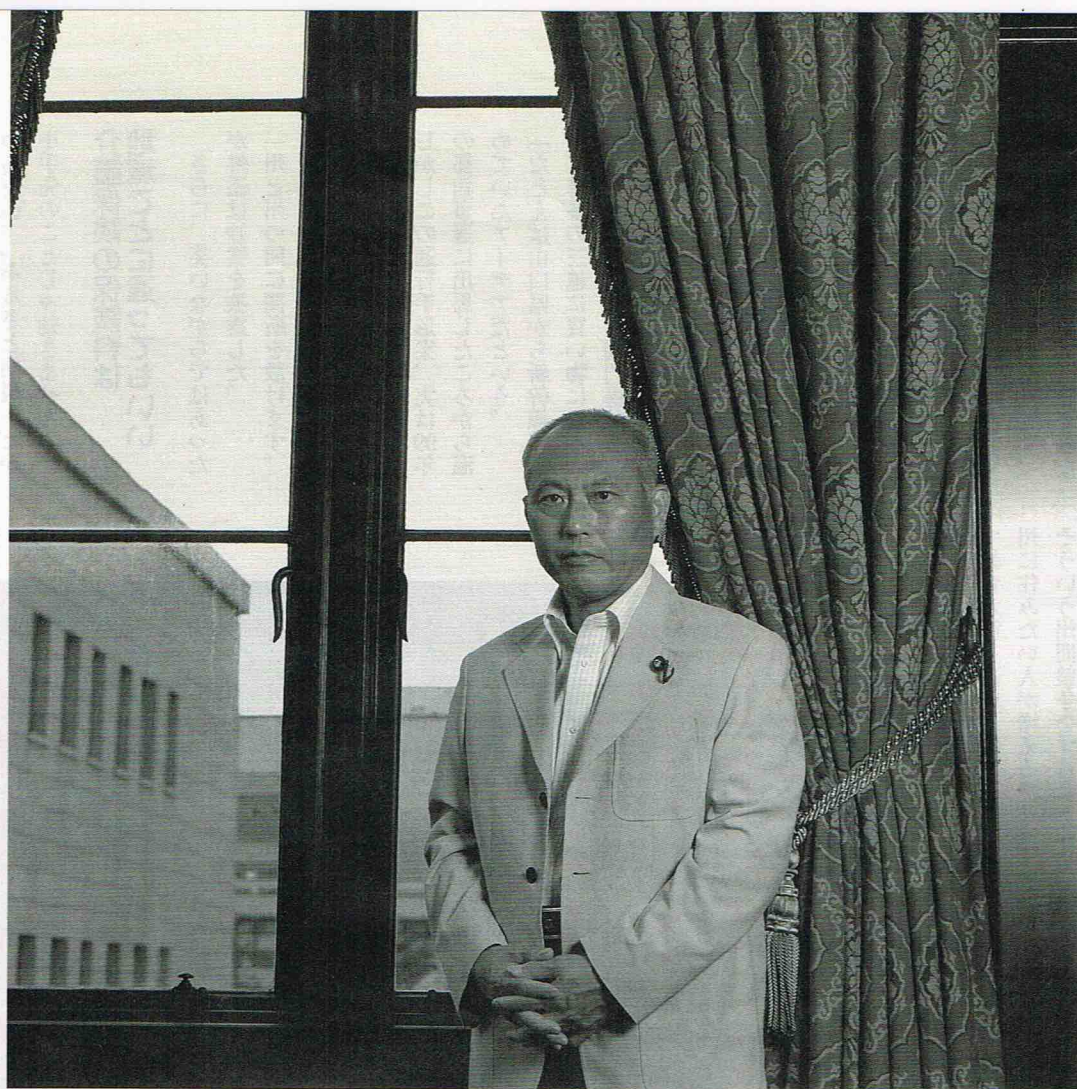
「本当はそんなことやってる場合じゃないんですよ。今の日本の繁栄がいつまで続くのかを心配したほうがいい。家電だってコンピュータだって、中国やインドにこまめ食われちゃってるし。このままではヤバイと思いますね。与党も野党も役所もサラリーマンも、みんなが協力しないと、この国はダメになるような気がするんです」

「そのためのモノを言うのは歴史を知ることだと言う。というの幕末から明治にかけて、『オールジャパン』の先例があるらしい。

「地域が元気にならなければ日本の再生はありません」

PROFILE

1948年福岡県生まれ。もともと国際政治学者だが、80年代から「朝まで生テレビ」などで人気者に。2001年、参議院比例代表で初当選。安倍内閣発足時に参議院自民党政策審議会長に抜擢。今年8月に厚生労働大臣に。



KEY PERSON DIME INTERVIEW

「幕末に、函館の五稜郭に立て籠もった榎本武揚がよい例です。反乱軍の頭領なのに明治政府は彼を殺さなかった。それどころか彼の才能を買って新政府内閣に登用している。こんなことする国、ほかにはないですよ。敵でも優秀なヤツは殺さないという知恵が日本人にはある。榎本のほうも偉くて、自分の持てる知識をすべて明治政府に渡そうとした。まさに『オールジャパン』で国造りをした。安倍首相がこういう歴史を知っていれば、去年『お友達内閣』を作ることもなかったと思うんです」

歴史を知らずして政治家になるなかれ? 「最後は歴史を知るヤツが勝つよ、フツツ」と不敵な笑みを浮かべた外添要一だった。

昭和20年にもやらなかった大改革をやるぞ!

「だからね、歴史は大事。人類のすべての教訓がその中にあるんですから。となると結局、教育の問題に行き着くんですね」

教育問題は医療問題と並んで、彼が力を入れる政策のひとつ。教育と医療に、貧富の差があつてはならない、が持論だ。

「今は公共教育があまりにもひどい。高いお金が必要な私立学校の方がいい教育をしている。となると貧富の差や地域格差が出てしまう。平等というのは、スタート地点が同じで、よいドン、で走って行くこと。でも今は、東京に生

まれた子と地方で生まれた子とでは明らかにスタート地点が違うわけですよ。日本が少しずつ階級化社会になりつつある」

東京と地方。都市と農村。日本の2極化はますます広がっている。この今もっともホットな「地域格差問題」の解決策は?

「私の答えは『道州制』です。明治維新では廃藩置県をやりました。今度は逆に廃県置州。東北6県は東北州ね、中国地方は中国州、九州は九州州か、とりあえず。昭和20年にもやらなかった大改革。」

今の日本には役割分担が必要ですよ。でも地方分権するにしても、教育や医療を一県で担えるかといったら担えないし、人々の生活圏も広がっている。県単位ではもはや小規模すぎる。明治以降、日本は中央集権化しました。その逆のベクトルで国の形を変えるんです」

道州制にすれば、おのずと役所のムダ遣いも減るといふ。

「霞が関が4分の1ぐらいになります。中央に必要なのは内閣府、防衛省、外務省、財務省。それから法務省。州によって犯罪の刑期が違っちゃまずいからね」

なるほど、農業政策などはまさに地域ごとに立てたほうがいい。

「それから住所も変わりますね。今までは、青森県何々町出身です、だったのが、私は東北州青森市だべ、ってことになる。これは人の意識を変えるのにすごく有効なんです。よく結婚した人が、新し

い名字を書く結婚の実感が湧く
って言うでしょ？今は戦争のな
い平時ですから、これぐらい目
に見える変化がないと人の意識は変
わらない。『ふるさと納税』とか
小手先のことで効きませんよ」

介護保険の保険料は 地域ごとに違ってもいい

さらに、笑いながらではあった
が舂添は妙案を披露した。

「州と州の間に関所を設けます。
江戸時代の箱根の関所みたいに通
行手形を出します」

だんだん話が過激になってきた。
しかしこの通行手形案、実は99年
の都知事選に出馬したころから温
めていたアイデアだという。

「たとえば山口県から新幹線に乗
って博多の三越に買い物に来る人
がいる。その場合、関門海峡を渡
る時に入国税を取ります。ひとり
1000円とか。往復で2000
円。そんなお金払うぐらいなら、
地元の百貨店に行くでしょ？あ
るいは逆に、お金を払ってでも行
きたい魅力的な州にすればいい」
道州制案はすでに自民党の公約
にもなっており、地方分権に向け
て大きなカギになっている。

「今はどんなに優秀な知事がいて、
どんなに優秀な政治をやっても、
住民の税金を下げることはできな
い仕組みになっている。総務省で
基本税率を決めているからです。
そんなものの撤廃すればいい。九州
に優秀な州長がいて、税金が安く

「道州制で住所が変わる 入国税も取る。 それぐらいのショック療法が 必要です」

て教育水準も高いとなったら、九
州に住みたい人が増えるでしょ？
そういう州間競争をすることが地
域再生につながるんです。スイス
がいい例です。州が変わるとパト
カーの色まで違う。別の国に来た
みたい。言葉も違うしね。日本だ

って東北弁と鹿児島弁の会話は絶
対不可能なわけだから、州によっ
て公用語が違っている。で、東北
州の公務員試験の面接は東北弁で
しか受け付けないとかね（笑い）

このインタビューから1週間後、

舂添は厚生労働大臣になった。医
療や年金問題にからみ、こんなふ
うに付け加えた。
「地方の医者不足などは、まさに
地方再生に欠かせない問題。保険
の問題にも関わってくるでしょう。
地方分権が進めば、たとえば介護

保険の保険料やサービス内容など
はある程度、地域の裁量に任せて
いいと思う。場所によってお年寄
りの数も違うわけだから。問題は、
どの程度、任せるか。不平等にな
らず、かつ競争性も損なわれない
方法でないといけない。ここは国
民と議論しなくちゃいけない」
火中の栗を拾う格好になった年
金問題は、すぐに「最後のひとり
まで救済する」と表明。年金はあ
くまで国の仕事としながら、
「今、会社に年金を払っている人
も、オレの年金、大丈夫か？」と、
どんどん問い合わせてくれたほう
がいい。医療も年金も、役所だけ
でなく企業やサラリーマン、国民
みんなで取り組まなくてはいいけ
ない。まさにオールジャパンで」
国民に対して「無関心でいるな
よ」と言っているように聞こえ
る。アウトサイダーから一転、内
閣のインサイダーへ。はたして理
論を形にできるのか？厚生労働
大臣・舂添要一の手腕が問われる。

KEY PERSON
DIME INTERVIEW

杉並区
和田中学校 前校長

藤原和博

Kazuhiro Fujihara

[公立中学校、復活の道]

KEY
DIME PERSON
INTERVIEW
VOL.18

先生たちを味方につけるために、
まずバカ親に対応から始めました

今年1月、公立中学校なのに夜間に塾を開いて、賛否両論の世論を沸かせた東京都杉並区立和田中学校。その日本一有名な公立中の校長だった藤原和博は3月末で退任。現在フリーで、和田中モデルの伝道師として全国を回る。リクルート社出身の民間人校長として、藤原は学校の何を変えたのか。そしてそれはこの先どこまで変わるのか。

取材・文／佐藤恵菜 撮影／佐藤敏和 本誌担当／水野麻紀子

KEY PERSON DIME INTERVIEW



PROFILE

1955年東京生まれ。78年東京大学卒業後リクルート入社。メディアファクトリー創設。02年杉並区教育委員会の教育改革担当に。03~08年まで和田中の校長。現在、全国「よのなか」科ネットワーク主宰3児の父。

和田中学校 校長日記

- 2003年 4月 東京都杉並区立和田中学校校長に就任
- 5月 「よのなか科」授業スタート
- 8月 「和田グリーンキーパーズ」結成
- 2004年 1月 図書館改造スタート
- 1月 「ドテラ」スタート
- 4月 「地域本部」設置
- 2006年 4月 授業時間を45分に減らして
授業コマ数を増やす
- 8月 「全国「よのなか」科ネットワーク」立ち上げ
- 2008年 1月 「夜スペシャル(通称「夜スペ」)」スタート
- 3月 来年度からPTAと地域本部の結合を発表
- 3月末 校長退任

リクルート社で新事業を次々と打ち立て、企業内自営業者「フェロー制度」を創案し、自らその第1号を実行したバリバリのビジネスマン。家庭では小学生の子の父だった藤原が、次の改革先として目をつけたのが公立中学校だった。教員経験のない民間人を公立学校の校長に起用する「民間人校長」が導入されたのは2000年4月。藤原は03年4月から東京都杉並区立和田中の校長になった。私立ではなく公立校にこだわったのは、地域ネットワーク型の学校を作り

たかったからだ。

就任早々、矢のように改革案を放った。「よのなか科」という名の授業の開始。校庭の芝生化、図書館の改造、土曜日の補習「ドテラ」の開始。退任直前の1月には、格別の進学塾「夜スペ」のスタートにこぎつけた。わずか5年の間に、和田中は日本一有名で進化した公立中学になっていた。

芝生のメンテナンスを町内でやってもらう

なかでも藤原が力を入れたのは、

学校の運営に地域の人的パワーを取り込むことだった。生徒の親、教員を目指す学生を始め、商店街の面々、リタイア後のまだまだ元気な人々などからなる、いわゆる和田中サポーターの力を結集。これを「地域本部」として組織していった。後に、この取り組みには文部科学省も相乗り。今年度は50億円の予算を取って全国に地域本部づくりを進めている。

退任後の藤原は、その先達として全国の校長や教師たちにレクチャーして回る日々。それ以外はフリーの身。インタビューが行なわれた日も、テニスの練習を3時間もしたと言う。さだまさし似の顔から受ける印象より、ずっとスポーティーな校長だったようである。

「僕が目指したのは、よのなか科と地域本部の2つの手法で地域に開かれた学校を作ること。学校を開くというキーワードは、もう何年も前からあったけどね。でも地域のエネルギー自体が弱っているから何も学校に入ってこない。だからまた閉じちゃう。その繰り返しだった。でも幸い、和田って所は杉並の下町みたいな所で、いろんな人がいるんです。学生もいるし、職人さんも多い。庭師や畳屋や自動車工や。そういう人たちの力を借りたんですよ」

それを象徴する成功例が、校庭の芝生化だった。

「芝生はね、どこの先生たちも嫌がります。手入れが大変だから。ただでさえ忙殺されていますから。だから、オレはやろうと思った。勝算があったの。手間のかかることを始めちゃえば、地域の人の手を借りざるを得ない。外の人が入

和田中 用語解説

よのなか科

授業で学習したことを世の中でどう使うかを教える授業。藤原からレクチャーを受けた教師たちが全国に伝播中。

和田グリーンキーパーズ

生徒の父親たちによる校庭整備チーム。立ち木の剪定に始まり、芝刈り、草刈りなどをボランティアでしてもらう。

ドテラ

土曜寺子屋の略。本来休みの土曜日に学校を開放し、大学生ボランティア(学ボラ)による補習を行なっている。

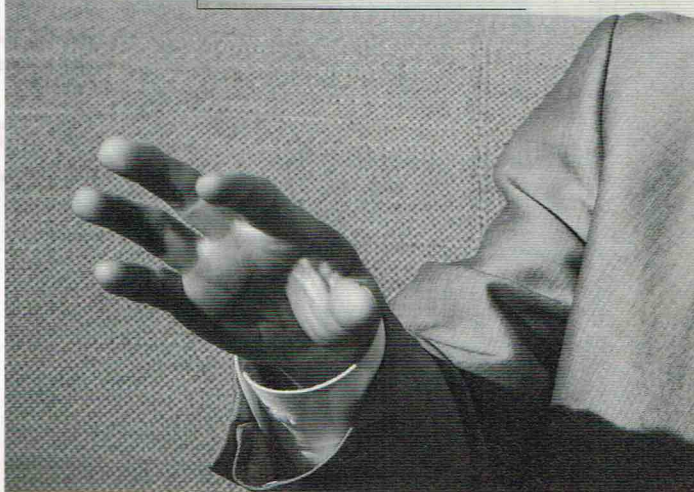
地域本部

教師だけでは手の回らない仕事をサポートするボランティア集団組織。学校を中心とした地域社会の要とも言える。

夜スベ

「私立を超えた公立」を目指し、私塾と提携して夜間、校舎内で開いている進学塾。月謝は9コマで月1万8000円。

教育改革したいなら ソフトを変えなきゃ。 指導要領じゃなくて、 人事を変えなきゃ。



「息子の通知表のことで、と職員
今話題の「モンスターパーレン
ツ」は和田中にも生息していた。
「先生たちが一番嫌がる仕事を引
き受けた。つまり、バカ親」の対
応です」
法に反発する教師は少なくなかっ
た。改革の成否のカギは、教師た
ちを味方にするかどうかにかあっ
た。そこで藤原がやったことは、
「先生たちが一番嫌がる仕事を引
き受けた。つまり、バカ親」の対
応です」
法に反発する教師は少なくなかっ
た。改革の成否のカギは、教師た
ちを味方にするかどうかにかあっ
た。そこで藤原がやったことは、
「先生たちが一番嫌がる仕事を引
き受けた。つまり、バカ親」の対
応です」

「よのなか科」授業テーマ

経済

- ◆ハンバーガー店の店長になってみよう
- ◆流行る店、流行らない店
- ◆ハンバーガーの原価と輸出入

政治

- ◆自分の家を設計してみる
- ◆自転車放置問題を考える
- ◆大きな政府、小さな政府

社会問題

- ◆中学生の学力は本当に落ちてきているか?
- ◆少年法を通して大人と子供の境目を考える
- ◆自殺問題から生きることと死ぬことを考える

室に相談に来た母親が延々と話し込んで、いつの間にか夫婦問題を相談していたりする。電話でグチグチ言ってくる親に何十分もつきあわされている。教師は電話を切れない。そういう訓練を受けていないから。でもそんな時間があったら次の授業の用意してほしいじ

マネージメント力のある 校長でないとダメ

校長藤原が5年間で実証してみせたのは、公立校もやり方次第でこれだけ変わるということだ。「教育ってソフトじゃない?」ダメな時に、いくら制度や法律をい

やない? だから親からのクレームは全部オレに回してもらった」これは効いた。バカ親を一手に引き受けたことで、教師たちの藤原への評価はガラッと変わった。「昔はね、子供は家庭、地域、学校の3つの社会で育てていた。それが核家族化して家庭が社会でなくなり、地域社会は衰退。子供は社会にもまれて強くなるのに、今はその役を学校が一手に引き受けざるを得ない。そして叩かれる。それは社会問題の落としどころとして、誰かを犯人にしたいから。だから、いじめにしても引きこもりにしても、学校で起こっている問題は、学校問題でも教育問題でもない。社会問題そのものです」

じつてもダメです。たとえば番組の視聴率が下がるとするでしよ、何を変える? ディレクターでしよ。電波法を変えないでしよ。ソフトってそういうものなのに、教育界では何かいけないうてなると指導要領変えたり、法律制度ばっかり。20年で何が変わった? もう結論出ているよ。教育はマネージメント。運用で変わる」その運用を画期的に変えるには、国と都道府県から地方への権限委譲が欠かせないと藤原は言う。「フィンランドの学校視察にみんな行くけどさ。あの国が何をやってたかという、教科書検定の廃止、指導要領の削減、それから徹底的な地方への権限委譲。校長の採用は市町村が決める。その校長が責任を持って教員を選ぶ。それがいやって、先生たちの工夫を引き出せるようにしなくちゃ」今の日本では、教員の採用は都道府県の教育委員会が行なう。校長先生には何の人事権もない。しかし、仮にその権限があったとしても、マネージメント意識のある校長先生はとて少ない。藤原はそこを最大問題視している。「教育は人事だ。ことがわかる人が教育界に少なすぎる」そこで民間人校長の出番だ。少子化で、やがて日本の中学校は全国で6000校程度になる。「そのうち半分の3000校に民間人校長を」というのが藤原の案。「その時の条件は60歳以上でも可。

おめでたの先生に「教材」として、 お腹を生徒にさわらせてもらった。 これ以上の命の教育はないでしょ。



兼業も可。いろんな世界の人がい
た方がいいと思う。民間人といっ
てもビジネスマンだけじゃなくて、
大学教授でもいいし、補習塾の塾
頭でも寺の坊主でもいいと思う。
だって、これからもクレーマーは
どんどん増えるよ。引退後の団塊
世代が、孫のため、って戦ってく
るから大変だよ。人間として幅の

広い人じゃないとムリだね。だか
ら学校は地域本部を作って、地域
と結託して、クレーマーに対抗す
るしかないんですよ」
最近、東大生の中に「30代で校
長になりたい」という学生がチラ
ホラいるそうだ。中学の校長がカ
ッコイイ職業に見えるようになって
たら、学校は変わっているだろう。

ウサギと鶏だけじゃなくて
牛を飼ってもいいだろう？

藤原の在任中、和田中は楽しい
イベントに満ちていた。

「学校は予定調和だと思ってる
でしょ、みんなが。僕は正解主義
って呼んでるけど。それを崩せば、
そりゃ面白くなるよ。僕が校長の
時、ちやうど、おめでたの先生が
多くてね。だから女子生徒に言っ
たの、一度は先生のお腹をさわら
せてもらいなさいねって」

先生の方にも、生まれたら1か
月に1回、赤ちゃんを学校に見せ
に来てくれるようにお願いした。
「教材として協力してもらいます
よ」って（笑い）。だってこれ以上
の命の教育はないでしょ」

藤原が飼っている犬も出産した
ので、子犬を学校に連れてきて受
験生に抱かせてあげた。ある日の
昼休みに突然、中庭でロックコン
サートを始めたこともある。

「こういうイベント、ちよつと考
えれば誰だってできるでしょ。誰
も困らないし。コンサートの時は
近所に10分だけ音をガマンしてね
ってお願いしたけどね。だからあ
とは、やるかやらないか、なんで
すよ。動物を飼うのだって、ウサ
ギや鶏じゃなくて牛だつていいじ
やない。授業中にモォって。な
ぜかマニュアルっぽくなっちゃう。
そういう予定調和のパターン認識
を打破していくためにも、教育の
権限を市区町村に下ろしていくこ

とが必要だと思う」

地方分権が叫ばれて久しいが、
都道府県も採用人事権をなかなか
手渡そうとしない。そういうする
なか、和田中ではこの5月、「夜
スぺ」の補習塾バージョンを開講。
世論はまたも賛否両論。しかし何
事もやってみなくてはわからない。
「自治体に気の利いた首長と教育
長がいて、そこで校長が奮起すれ
ば学校は絶対、変わる」

最後に、藤原はこうも言った。
「中学生って子供が大人たちを疑
い始める、大人の始まりでしょ。
一番、魂が揺れる時なんですよ。
そういう時に本物の大人をぶつけ
てあげないとかわいそうだよ」
家庭からも地域からも、つきあ
える大人が減っている。せめて学
校には本物の大人をおかなくては、
という切実な危機感なのだと思う。
今、公立学校は過大ともいえる責
務を背負わされている。その理由
の何割かは、社会人みんなにある。
子を持つ人も持たない人も、公立
校の冒険に目を向けてほしい。

藤原氏の著書



◆民間人校長として着任した2003
年4月から1年。新米校長の奮闘の記
録。藤原の学校改革がつまびらかに描
かれた教育改革実践ガイドブックとも
いへば「公立校の逆襲」(ちくま文庫)。